

# 第15回 ソーシャルワーク研究所 シンポジウム

2020年

12/13日

オンライン開催

13:00~

## ソーシャルワーク専門職として 支援のウィングを広げる思考の方法 —コロナ禍で顕在した生活困難を乗り越えるために—

「第15回シンポジウム」(2020年12月13日)は、  
新型コロナウイルスの影響により、オンライン(Zoom)で開催します。

ソーシャルワーク研究所のシンポジウムは初回開催から20年目を迎えます。  
当日は、研究所スタッフ総出でお目にかかります。

### ●プログラム (敬称略。事情により変更となる場合があります。)

所長挨拶	13:00~13:10
------	-------------

北川 清一 (ソーシャルワーク研究所所長、明治学院大学副学長)

第1部 【主題講演】	13:10~14:20
------------	-------------

講師：渡部 律子 (日本女子大学教授)

「渡部律子とともに考えるソーシャルワーク専門職の再生と原点回帰  
—最適な支援を摸索することの意義と思考の方法—」

※司会進行：稗田 里香 (武蔵野大学教授)

※講演後に、講師との質疑応答を行います (Zoomの「チャット」機能を用います)。

休憩 【リモートお茶会】	14:20~14:30
--------------	-------------

第2部 【指定討論】	14:30~16:45
------------	-------------

〈 主題講演から学ぶ「実践を理論に繋げる」ための方略 〉

発題者1：川向 雅弘 (聖隷クリストファー大学教授)  
「地域志向の実践は一人ひとりのwell-beingを確保できるか」

発題者2：堀越由紀子 (東海大学教授)  
「他職種連携の進め方とソーシャルワーカーの専門性の姿」

発題者3：小山 聡子 (日本女子大学教授)  
「ソーシャルワーカー教育とソーシャルワークの日本的展開」

※司会進行：丹野真紀子 (大妻女子大学教授)

※発題後に、10グループ (1グループ=参加者8名と研究所スタッフ1名) に分かれてグループ・ディスカッション (Zoomの「ブレイクアウトルーム」機能を用います)、及び、講師との質疑応答を行います。

閉会挨拶	16:45~17:00
------	-------------

北川 清一 (ソーシャルワーク研究所所長、明治学院大学副学長)

---

## ●開催趣旨（概要）

昨今の新型コロナウイルス禍の状況下で人びとの暮らしは未曾有の混乱に陥った。多くの人びとが亡くなられ、命の危機に曝され、生活が破綻する様相の広がりには悲劇そのものであった。さらに、梅雨期における警戒・警報級の大雨による災害が重なり、既存のシステムの想定をはるかに超えた事態、露わになった対応の遅れと政治的無策は、人びとの暮らしに新たな差別や偏見を顕在させている。社会福祉実践の新たな基軸のように強調されている「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けた取り組みも、十分に機能しない実態を露呈することになった。それは、このような事態に突然のように見舞われた人びとが、社会福祉に限らない専門職による対応に「バラツキ」を体験した「現実」について、それを「見放された思い」として涙ながらに語り始めた内容から読み取れることになる。

あらたな状況への対峙方法が必ずしも明確になっていない「withコロナ、afterコロナを乗り切る」方略（strategy）について、ソーシャルワーク研究所は、ソーシャルワーク専門職として、あらためて「安心」「安全」「ゆったり」「いきいき」「穏やか」「のどか」の言葉に代表されるような「暮らし」を多くの人びとが実感できる、それを支える実践方法を共有することを企図した取り組みを提起する必要性を感じている。

そこで、今回のシンポジウムでは、志を共にするソーシャルワーク専門職に連なる仲間達とともに検討を加える際の切り口（remind）を以下の二つに求めてみたい。一つには、窪田暁子が提起した「方法・技術研究の基本的視点と方向」、二つには、D.A.ショーン（Donald Alan Schön）が著した「反省的实践家」なる考え方である。

ソーシャルワーク専門職を取り巻く状況の中に多様なタイプの苦悩と困難が垣間見られる限り、向き合う課題にいかに入介入するかの理論（知識）の習得とそれに支えられた支援方法の共有化（＝ソーシャルワーカー・アイデンティティの形成）に向けた努力を継続することは断念すべきでない。ソーシャルワーク専門職が繰り広げてきた「実践」について、窪田やショーンの提起に「思い」を寄せ、無数に蓄積された「実践」を「原点」に立ち返りながら掘り起こし、「実践理論」の生成に努めてみたい。そのことなしに「withコロナ、afterコロナを乗り切る」ためのソーシャルワーク専門職に求められる独創性と創造性が育まれることはないからである。

---

●主 催 ソーシャルワーク研究所 ●開催方法 オンライン（Zoom）で開催します。

●開催日時 2020年12月13日（日）13：00～17：00（受付開始12：30）

●参加費 2,500円 ●参加対象 どなたでもご参加いただけます。

●募集定員 80名（申込み締切日は11月20日です。なお、定員になり次第締め切ります。）

## ●申込方法

- 1) 参加を希望される方は、研究所ホームページの申込みフォームから事前参加登録をしてください。事前参加登録を行うと登録済みの自動返信メールが届きますので、メールの受信を確認してください。
- 2) 研究所の口座【みずほ銀行 高輪台支店（普）1100462、名義：ソーシャルワーク研究所】に、参加費をお振り込みください。誠に恐れ入りますが、振込手数料はご負担願います。なお、ご入金後の参加費は返金いたしかねますのでご了承願います。
- 3) 参加費の入金が確認できた事前参加登録者には、開催2週間前に資料集を郵送、開催2日前にZoomの招待メールを送信します。

## ●オンラインのシンポジウムへの参加に際して

- 1) ご自身で「Web会議システム（Zoom）」の環境を準備し、自宅等でシンポジウムにご参加ください。タブレットやスマートフォンでも参加可能ですが、安定したインターネット回線に接続されたパソコンをご用意いただき、事前にZoomのアプリ（無料）をダウンロードの上、接続のテストを行うことを推奨します。また、周囲の雑音を軽減するため、イヤホン（イヤホンマイク）のご使用をお勧めします。
- 2) 当日は、受付開始時間になりましたら、Zoomの招待メールに記載されているURLからご参加ください。Zoomの映像と音声について、第2部のグループ・ディスカッションではオンでご参加いただけますが、顔出しや声出しにお差し支えのある場合は、オフでも構いません。第2部のグループ・ディスカッション以外は、基本的にオフでご参加いただく予定です。なお、当日の受付方法・参加方法等の詳細については、資料集を郵送する際にご案内します。
- 3) Zoomの使用を起因とするパソコン等の情報通信機器のトラブルには対応いたしかねます。誠に恐れ入りますが、Zoomの操作方法等のテクニカルサポートも行いませんのでご了承願います。

## ●お申し込み・お問い合わせ先

ソーシャルワーク研究所  
〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37 明治学院大学北川清一研究室気付  
Fax：03-5421-5344  
E-mail：swkenkyu@mail.meijigakuin.ac.jp  
URL：http://www.meijigakuin.ac.jp/~kitagawa/

---